

令和6年度「地域学校協働本部事業」 檜葉町地域学校協働センターの取組事例

「CSとの一体的推進により、「こどもまんなか」の活動を推進」(福島県檜葉町)

取組の概要や経緯

地域コミュニティを復興・創生させるため、令和4年度より地域学校協働センターを設置して地域学校協働活動の一層の推進を図り、地域・家庭・学校のニーズに応じた多様な活動を展開してきた。令和5年度から放課後子供教室の一環として展開してきた子どもの自己実現の機会である探究トライアルでは、学校教育と連動させて、こども議会での複数の提案を社会教育の場で具現化させるなど、年々、子どもの自己実現の場としての役割が高まってきている。



内容

- 週に4日、地域住民を講師とした校内交流型の放課後子供教室を展開
- こども園・小中学校において地域との協働による教育活動・連携授業を実施
 - ・地域学校防災授業やこども議会などの総合的な学習の時間などの授業指導
- 地域をフィールドにした活動や地域からのオーダーに基づく土曜学習の展開
- 小学校における福島大学生や東日本国際大学生による学習支援活動
- 浜通りだけでなく、会津や能登など県内外における幅広い防災教育、伝承教育の展開



ポイント

- センターがCS事務局も兼ねることで、協働活動と一体的に推進している。
- 小中学生も参画する教育トークを開催し、子どもの声をCSに反映させている。
- 多様な活動をセンターが一元的に管轄することで、学校や地域の幅広いニーズやオーダーに沿った活動が展開しており、地域のネットワーク化が進んでいる。

成果

- CSとの一体的推進により、子どもの声を活かした活動が展開されるなど、PDCAが機能している
- 異学年の友だちが増えた子67%、地域住民の知り合いが増えた子63%と、例年よりも増加傾向にある
- 子供教室により、登校意欲が高まった子どもは77%を占める
- 不登校傾向の児童が毎日通所し、授業に戻るなどの改善
- CSとの一体的推進で文部科学大臣表彰 優秀賞受賞



今後の方向性

- 引き続き、「こどもまんなか宣言」に基づき、子どもの自己実現の場としての役割を強化させる。特に輪島市での活動を強化させ、防災まちづくりにもつなげていく。
- 不登校傾向の子どもの来所が増えており、引き続き、午前中からの開所とすることでサードプレイスとしての機能を高める。
- 近隣自治体と連携しながら、広域でのCSの拡大熟議などを検討し、不登校や放射線教育などにおける自治体間でのネットワーク化を図る。